# きららとしょかん明徳館 あたらしくはいった こどもの本

### No.371 2025年11·12月発行

秋田市立図書館ホームページURL

https://www.city.akita.lg.jp/



kurashi/shakai-shogai/ 1008469/index.html

## おしらせ

## 「図書館のお仕事たいけん」

カウンター、予約本さがし、展示コー ナー作りなど図書館のお仕事を体験。

対象▶小学4年生~6年生、15人

日時▶12月21日(日)9:15~12:00

会場▶研修ホールと児童コーナー

申込▶12月6日(土)から明徳館で受付

#### 「かぞくぶっくぱっく」リニューアル!

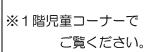
11/29(土)から、本のお楽しみ袋「かぞ くぶっくぱっく」が新しくなります。

年齢別、ジャンル別にさまざまなぱっくを用意 しています。ガチャぱっくもありますよ。 新たな本との出会いのきっかけに。 ぜひ借りてみてください。



## 今月のテーマ展示

- ●『クリスマス』(特集児童4)
- ●『おてがみ』 (カウンター展示1)





# えほん



#### もりのどうぶつ

おおたけひでひろ/文・写真 福音館書店

(Fオ・アカチャン) ※O歳から

あかりすが、きょろきょろやってきました。両手で木の 実をもって、かりかりかじります。らいちょうは、ひょ こひょこやってくると、ぱっぱっぱと羽をひろげました。 森にすむ動物の仕草や表情に、擬音をつけて見せる写真 絵本です。



#### よるのミニカーたんけんたい

関根知未/作 アリス館

(Fセ・アカチャン) ※2歳から

夜のミニカーたんけんたいは、ひっそりこっそり出かけ ます。みんなを起こさないように、しずかにゆっくり進み ます。まずやってきたのはねずみさんの家。これからいっ しょに夜のたんけんに行くのです。「ブルルン ブルルン ブオン ブオン」。ミニカーたんけんたい出発です!



#### おにぎり ぱく!

はらぺこめがね/作 白泉社

(Eハ) ※3歳から

おにぎりをぱくっと食べると、中からしゃけが出てきま した。ツナマヨ、こんぶ、たらこなど、いろいろなおに ぎりをぱくぱくいただきます。とても大きいおにぎりは、 中からチャーハンが出てきました。みんなはどんなおに ぎりが好きですか?



#### はじめてであう きょうりゅう

バスチャン・コントレール/作 真鍋真/訳

岩波書店

(Eコ) ※3歳から

地面の下から、きょうりゅうの化石が出てきます。むか し地球には様々なきょうりゅうがいました。バスを2台 並べたより長かったり、にわとりくらい小さかったり、 化石をみると大きさや食べもの、狩りの仕方など、きょ うりゅうのいろんなことが分かるのです。

## 低学年何き



ならんでみせます! はしもとえつよ/作 BL出版 (Eハ)

おうだんほどうの白いせんたちは、人々の安全を守るため、どんなときでもしっかりとならんでいます。くすぐったくても、とりのフンがおちてきてもがまん。仕事がおわって、おふろの中で一日をふりかえるのが楽しみです。ところが、おうだんほどうをわたらない子どもがあらわれ、せんたちはショックをうけます。



魔法の庭の子ねこたち 1 アンのおはなし あんびるやすこ/作・絵 ポプラ社 (91ア)

ジャレットは、トパーズそうで6ぴきのかわいい子ねこたちとくらしています。その中でアンは、ぴかぴかの毛皮がじまんのおしゃれねこ。「とくべつなねこ」だと言われ、絵のモデルをしますが、どろんこあそびにくわわると、ほかの5ひきと見分けがつかなくなってしまいます。本当に「とくべつなねこ」って何でしょう?

# 中学年何き



山の神の使い最上一平/作マメイケダ/絵

童心社 (91モ)

東京に住む大河は、春の田植えや夏休み、秋の稲刈りの時期に山形のおじいちゃんとおばあちゃんの家で過ごしています。目の悪いおじいちゃんの見守りや農作業を手伝いながら、大河はいろいろなことを教わります。 少年が季節ごとにからだ全体で感じる自然の豊かさや人々の暮らしを鮮やかに描いた物語。



大谷翔平 夢にフルスイング

ジェームズ・バックリー・ジュニア/著 児島修/訳

ポプラ社 (78)

メジャーリーガーの大谷翔平選手といえば、だれもが知る野球界の世界的なスーパースターです。 今シーズンは投打の「二刀流」復活で、活躍がさらに注目されました。この本では、大谷選手の野球に対する取り組み方や強い信念など、夢の実現のためにどのように歩んできたかを紹介します。

# 高学年以上



てまりのナゾほどき帳 出島と秘密の紅い石

荒川衣歩/著 講談社 (91ア)

江戸時代、唯一外国との貿易が許されていた長崎で、父とともに古着屋を営んでいるてまり。ある夏の日、店に季節外れの半てんが持ち込まれ、翌日すぐに高値で売れるという出来事が起こります。再び持ち込まれた半てんを見て不しんに思ったてまりが調べてみると、中から紅玉(ルビー)が出てきたのです!



みんなが知りたい! 日本の甲冑のすべて

世界に誇る鎧と兜の歴史と見どころがわかる

「日本の甲冑のすべて」編集室/著 メイツ出版

(75)

甲冑は武士たちが戦いに出るときに身につけた防具です。時代や戦い方の変化に応じて、構造や機能も変わっていきました。また、身分を表したり、士気を高めたり、自らの存在を誇示したり、などの理由で個性的なデザインのものが作られました。この本には、佐竹史料館所蔵の秋田藩藩主佐竹氏の甲冑も掲載されています。